

陸連時報 第三

2020
令和2年

3 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2020年の取り組み(専務理事 尾縣 貢).....	166
東京2020オリンピック20km競歩日本代表有力選手情報.....	167
第26回JAAFコーチングクリニック報告(指導者養成委員会 副委員長 沼澤 秀雄).....	168
2019年度全国普及育成担当者会議 報告(指導者養成委員会委員長 山本 浩).....	169
WA Kids Kinesthetic Intelligence Facilitation Seminar参加報告 (指導者養成委員会 普及ディレクター 岸 政智).....	170
2019年度全国区域技術役員会議 報告(施設用器具委員会).....	171
大会中止に関するアンケート調査(JAAF RunLink担当 畔蒜洋平).....	172
JAAF RunLink Supporting Members Meeting開催報告.....	173
東京マラソン1マイルズ2020 実施概要.....	174
2019数字で見る陸上競技Vol.4 都道府県別高校生陸上競技部員割合.....	176
第220回ワールドアスレティックス(WA)カウンスル会議報告 (日本陸上競技連盟 会長 横川 浩).....	177
大会観戦ガイド.....	178
陸協NEWS.....	180
事務局からのお知らせ.....	182

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2020年の取り組み

専務理事 尾 縣 貢



東京オリンピック前年となる2019年の日本陸上競技界は、長い歴史において稀有と言えるほどの記録ラッシュに沸きました。実に、走・歩・跳・投で11種目（オリンピック種目）の日本記録が誕生しました。これは強化活動が順調に進み、確実に競技力向上がなされた証と言えます。

オリンピックまでは限られた期間ですが、総力をあげて最後の準備に当たって参ります。皆様にご協力を賜り、オリンピック本番に向けて邁進して参ります。

東京オリンピックに臨む

東京オリンピックの印象的なシーンと問われれば、皆様は、何を思い浮かべられるでしょうか。私は、「ヒートリーと円谷のデッドヒート」「弾丸のようなボブ・ヘイズ」「聖火ランナーの坂井義則氏」「ブルーインパルスが青空に描く五輪の輪」などが次から次へと浮かんできます。しかし、5歳であった私にはオリンピックに関する記憶が全くありません。

これらのシーンは、成長してからテレビや新聞などの媒体で得た情報、多くの人から伝え聞いた話しが創りあげた私の「1964年東京オリンピック」なのです。しかし、それらがいつしかオリンピックへの強い憧れと変わっていききました。これもオリンピックのレガシーだと言えます。直接的だけではなく、間接的にも人の心に入っていく、強い影響をもたらすという魅力を持っています。

まもなく、聖火リレーがスタートし、ホストタウンの取り組みやボランティア活動の準備が本格化してくることでしょう。そこでは多くの人たちが関わり、東京オリンピック・パラリンピックが世紀のスポーツの祭典に昇華していくことになります。

再び東京にやってくる世紀のスポーツの祭典に直接立ち会うことができるのは、私たちにとって至上の喜びだと言えます。まずは、皆さまとともにこの幸せを感じたいと思います。そして、オリンピック・パラリンピックを機会に、陸上競技をさらに発展させるべく、それぞれの立場で力を尽くしていきたいものです。

アスリートの皆さんには、僅かでも出場権獲得の可能性がある限り、最後まで挑戦し続けてもらいたいと思います。たとえ出場が叶わなかったとしても陸上競技に取り組む者として、何かを感じ、何かを得ることができるはずです。それが、自身を変えたり、飛躍させるきっかけになったり、これから生きていく上でのエネルギーになっていくことでしょう。

そして代表選手となったアスリートには、結果もさることながら、日本国民の多くが心から応援したくなるようなアスリートとなり、子どもたちが思わず背中を追いとなるような活躍をしてくれることを願っています。そのためには、日本オリンピック委員会が2014年のソチオリンピックから掲げているスローガンである「人間力無くして競技力向上なし」という理念を心に刻んでいただきたいと思います。人間力の高いアスリートたちの活躍が、「多くの国民がスポーツに関心を持ち、子どもたちが自主的にスポーツを始める」というレガシーとなり、ポスト2020の陸上競技界を支える原動力になることでしょう。

そして、競技運営を支えていただく競技役員の皆様、ボランティアの皆様にも、ホスピタリティ精神溢れる「和」の心を持った活動をお願い申し上げます。オールジャパン体制で取り組んでいくことで、ポスト2020には競技運営、ボランティア活動の分野でも素晴らしいレガシーが残ることを期待しています。

ポスト2020を考える

2017年には、JAAF 2017 VISIONを発表し、「競技陸上」「ウエルネス陸上」の2本の柱を打ち立てることを公言いたしました。そして、それを具現化していくための競技者育成指針を2018年11月に発表しました。この指針のスローガンは、「一人でも多くの人が陸上競技を楽しみ、そして関わり続けること」です。この理念は、陸上競技愛好者を増やすことに繋がるだけではなく、長く陸上競技に取り組むことで、個々が有する潜在力を出し切ることに繋がるために競技力の向上に資することになります。

現在、育成指針の考えに沿って進めている具体的施策があります。一つは、発育発達に沿った競技会のあり方の検討です。アスリートのスポーツ障害やバーンアウトをなくすような方向性を競技会の種目や配置を考えることで示していくことが求められます。そのためには、指針に示されているように、人生を6つのステージに分けた場合のそれぞれのステージにおける陸上競技への取り組み方を理解していただく必要があります。

「ウエルネス陸上」の実現においても、具体的な施策を進めています。2108年11月に新設をしたJAAF RUN LINKは、週1回以上ランニングを行う人口2000万人を目標に種々の活動を展開しています。そのためには、市民マラソンプームを文化へと昇華させる取り組みを展開していく必要があります。日本中のロードレースのクオリティを引き上げ、ランナーが安心して走れるレースにするとともに、ロードレースがもっと身近なものに思える努力を続けなければなりません。引き続き、大会同士の情報の交換、安心安全な大会づくり、正しいランニングの普及、ランナーサービスなどを心がけて参ります。

加盟団体、協力団体、スポンサー各社、陸上ファンの皆様の支えをいただきながらオリンピックイヤーの活動を展開してまいりますので、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

東京2020オリンピック20km競歩日本代表有力選手情報

男子20km競歩 派遣設定記録（1時間20分00秒）突破者



20kW
内定

山西 利和
(愛知製鋼)

SB : 1.17.15 / PB : 1.17.15



50kW
内定

川野 将虎
(東洋大学)

SB : 1.17.24 / PB : 1.17.24



池田 向希
(東洋大学)

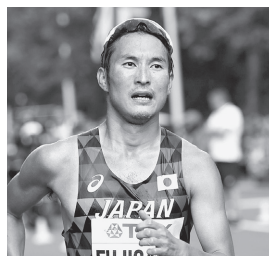
SB : 1.17.25 / PB : 1.17.25



50kW
内定

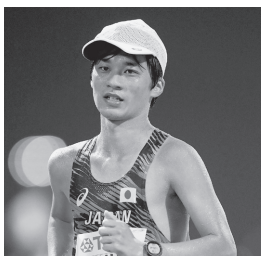
鈴木 雄介
(富士通)

SB : 1.17.47 / PB : 1.16.36



藤沢 勇
(ALSOK)

SB : 1.17.52 / PB : 1.17.52



高橋 英輝
(富士通)

SB : 1.18.00 / PB : 1.18.00



荒井 広宙
(富士通)

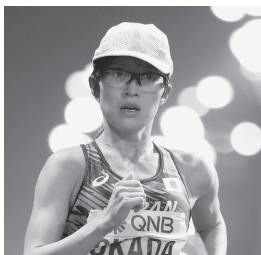
SB : 1.19.00 / PB : 1.19.00



野田 明宏
(自衛隊体育学校)

SB : 1.19.00 / PB : 1.19.00

女子20km競歩 派遣設定記録（1時間30分00秒）突破者



岡田 久美子
(ビックカメラ)

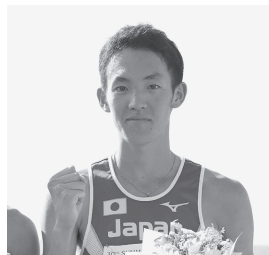
SB : 1.27.41 / PB : 1.27.41



藤井 菜々子
(エディオン)

SB : 1.28.58 / PB : 1.28.58

男子20km競歩 参加標準記録（1時間21分00秒）突破者



古賀 友太
(明治大学)

SB : 1.20.24 / PB : 1.20.24



諏方 元郁
(中越よつば森林組合)

SB : 1.20.49 / PB : 1.20.49



丸尾 知司
(愛知製鋼)

SB : 1.20.56 / PB : 1.19.42

JAAF LIVE ATHLETIC

写真提供：フォート・キシモト

第26回JAAFコーチングクリニック報告

指導者養成委員会 副委員長 沼澤秀雄

味の素ナショナルトレーニングセンターを会場にして第26回JAAFコーチングクリニックを2019年12月28日(土)に開催した。今年度は申込数80名、参加者は77名(男性53名、女性24名)であり、そのうちJAAF公認コーチ・ジュニアコーチ有資格者が64名(83%)であった。例年は優秀な選手を育てた指導者による実技講習と話題になっている内容での講義を実施していたが、今回は指導者にとって重要な情報の提供と指導者の資質に関わる内容の講義とした。講師は国立病院機構西別府病院スポーツ医学センター長でスポーツドクターの松田貴雄(まつだ たかお)医師、今年度から指導者養成委員会に加わった、日本スポーツマンシップ協会代表理事で千葉商科大学の中村聡宏(なかむら あきひろ)氏とコーディネーショントレーナーであり、日本サッカー協会フィジカルプロジェクト委員の泉原嘉郎(いずはら よしお)氏に担当していただいた。

午前のプログラムは、元サッカー日本代表、元サッカーU17女子日本代表のチームドクターを務め、Jリーグドーピングドクターでもある松田先生に「女性アスリートの三主徴を理解してパフォーマンス向上につなげる」というタイトルで講義をしていただいた。豊富なデータの裏づけによる事実は現場の常識とまったく一致しているわけではなく、現在行われている女性アスリートの生理や貧血に対する対応を、今一度考え直したほうが良いのではないか、という指摘に受講

者も驚きを隠せない様子であった。

次のプログラムは日本のスポーツ指導者に対してスポーツマンシップの啓蒙活動を精力的に行っている中村先生による「真のスポーツマンシップをめざしてースポーツマンシップを理解し実践する意義を考えるー」というタイトルでの講義であった。知っているようで、はっきりと理解して指導することが難しいスポーツマンシップについて、わかりやすく解説していただいた。また指導者の使命は選手の記録の向上だけではなく、選手の人間形成であることなど示唆に富んだ内容であった。

午後のプログラムは、ドイツで長年にわたってコーディネーショントレーニングを研究し、日本のトップ選手に指導しておられる泉原先生による、「潜在力を高めるアスリートのためのコーディネーショントレーニング」のタイトルでの講義と実技であった。陸上競技選手にも応用できる様々なトレーニング方法を実際に体験して、受講者はコーディネーショントレーニングの楽しさと神経系に及ぼす効果を実感したようであった。

今回の講師の方々は、直接陸上競技の指導者ではないものの、講義と実技の内容が陸上競技指導にすぐにでも役に立つものであったため、受講者のアンケート評価の反応は大変良好であった。来年度以降も、同じような内容でのクリニックを関東以外でも実施できればと検討している。



2019年度 全国普及育成担当者会議 報告

指導者養成委員会委員長 山本 浩

日時：2019年12月22日（日）13時00分～16時00分

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター

出席者：山本 浩指導者養成委員長、沼澤秀雄副委員長、桜井智野風コミッティーディレクター、岸 政智普及ディレクター、指導者養成委員会委員、都道府県陸上競技協会普及育成担当者

議題：

A. 指導者養成に関して 山本 浩

B. 指導者養成事業及び指導者資格に関して 沼澤秀雄

沼澤副委員長から、改めて日本陸連の指導者養成について説明。陸連は現在、日本スポーツ協会（以下JSPO）が設定している4つの「JSPO公認スポーツ指導者資格」の内、「コーチ1」に相当する「JAAF公認ジュニアコーチ」と、「コーチ3」に相当する「JAAF公認コーチ」を養成している。

資格の保持を義務づけられている大会が「国民体育大会」と「日清食品カップ」全国小学生陸上競技交流大会であること。

指導者資格有資格者に対する競技会入場特典措置についても説明した。

C. 委員会事業関連 沼澤秀雄

1. JAAF公認コーチ（日本スポーツ協会コーチ3）養成講習会開催要項

「地域において、競技者育成のための指導にあたるとともに、広域スポーツセンターおよび各競技別トレーニング拠点において、有望な競技者の育成にあたる者を養成する」講習会。受講条件には「受講する年の4月1日現在、満27歳以上の者」で「原則、JSPO公認コーチ1有資格者」であることを定めている。

この文言中の「原則」について質問があったが、制度の変化に伴い「過去に公認指導者資格を取得された指導者の中に、公認ジュニアコーチの資格を持ち合わせない人が存在する」こともあって「何年かした段階で外していきたい」と回答した。

2. JAAFジュニアコーチ（日本スポーツ協会コーチ1）

養成講習会開催要項

「地域スポーツクラブ（スポーツ少年団を含む）、小・中・高校生部の活動において発育発達段階を考慮した、競技者育成のための基本指導ができる指導者を養成する」のが狙いの講習会。

受講条件に示した「満20歳以上」という新たな設定に関して、「これまで私たちの陸協では大学一年生に取得するように勧めてきたいきさつがある」ことなどを理由に参加者の間から疑問の声が上がった。年齢条件引き上げの背景には「高校を卒業して指導の経験のないままに指導者資格を求めて受験するのはいかがなものか」と疑念が生じたところにある。資格制度の狙うところは、受講者（生徒・選手）に最大の利益をもたらす「受講者優先の発想」にある。資格取得者の利益を考えながらも受講者に重心を置いた条件設定となれば、年齢の引き上げがもたらす益の方が幾分多いとの判断になった。

会場での受講者に関しては1会場20人以上であることを条件に開催することとし、開催の2ヶ月前の段階で希望者が20人に

満たなかった場合には中止の判断をすることを伝えた（申し込みの締め切りはこれまでどおり、開催の1ヶ月前まで）。

3. 公認コーチ受講者の都道府県推薦について

JAAF公認コーチ養成の目的は「各都道府県にて強化・育成に携わる」「選手団の監督・引率を担う（もしくは将来的にそういった役割を担う）」人材と位置づけている。それぞれの陸協に受講希望者を推薦してくれるよう依頼。回答を、2020年1月31日（金）までとした。

4. 2020年度及び今後の指導者養成

U-13（小学生）指導者講習会開催要項

「陸上競技における小学校教員および指導者の指導資質向上」を目的として開催する。地域によっては必ずしも協力的でないところが存在する。講習には日本陸連が平均して3人を派遣する。

5. JAAFコーチングクリニック（2019年度）

今年のコーチングクリニックは、「女性アスリートの三主徴を理解してパフォーマンスにつなげる」「国立病院機構西別府病院の松田貴雄医師、「真のスポーツマンを目指して～スポーツマンシップを理解し実践する意義を考える～」日本スポーツマンシップ協会代表理事の中村聡宏氏、「潜在力を高めるアスリートのためのコーディネーショントレーニング」ドイツ・ライプツィヒ大学博士の泉原嘉郎氏と、三人の演者による変化に富んだ講演・実技のプログラムとなった。

参加者からは、「都道府県内の指導者の参加を促すため、もっと早い時期にプログラムを発表してほしい」との声が上がった。この講習会は「JSPO公認スポーツ指導者の『更新研修』」として位置づけられている。情報を伝えて参加を促したい陸協の担当者声には説得力がある。当委員会では、内容が煮詰まった段階で都道府県陸協に一報を入れるよう務めることを伝えた。

6. 資格取得および更新研修について

各都道府県における更新研修は、最低年に1回、各都道府県陸協で実施していただきたい。研修の報告に関して「講習会終了後、2週間以内」としていることに関して、「全てが終わった後でよいか」との質問があった。当委員会としては「講習会毎に、2週間を目安に報告を願いたい」と回答した。

D. 普及活動に関して

桜井智野風

U-13、U-16に加えて2020年度に始まる、「U-10みんな集まれ!!陸上遊び」に関して概要を説明。「スポーツの基本となる『走』『跳』『投』の運動を小学生に楽しく体験しながら、同時に「小学生陸上競技指導者に正しく学んでもらう」ことを意図している。

これまでのU-13の考え方と大きな違いはないが、遊びを取り入れることを重視した上での実施を想定している。

普及に関しては、それぞれの陸協がその実力を独自に発揮し、それを陸連がサポートする方向を目指している。お互いの密な協力を忘れず、普及活動の理想型に近づいていきたい。

###



WA Kids Kinesthetic Intelligence Facilitation Seminar 参加報告

指導者養成委員会 普及ディレクター 岸 政智

この度、世界陸上競技連盟（以下、WA）のアジア地域発展センター北京（以下、ADC Beijing）が主催する標記セミナーに参加させていただく機会を得たので、以下に報告をさせていただきます。

1. 研修名：Kids Kinesthetic Intelligence Facilitation Seminar
2. 場所：浩悦スポーツセンター・SWEパフォーマンス館（中国・西安）
3. 期日：2020年1月8日～10日
1/8 午前：幼児・運動感覚の理論講習
午後：幼児の運動感覚促進の為の実技講習
1/9 午前：児童の運動感覚の理論講習
午後：児童の運動感覚促進の為の実技指導
1/10 午前：他競技におけるトレーニングの紹介
午後：幼児・児童のコントロールテストの紹介
4. 講師：張英波（北京体育大学・教授）
孫海蘭（西安体育学院・准教授）
5. 参加者：中国、マカオ、モンゴル、台湾、韓国、日本（岸）計10名、ADC Beijing事務局長、西安体育学院幹部及び学生

6. セミナーの概要：中国・西安で行われたKids Kinesthetic Intelligence Facilitation Seminarに参加した。午前中の講義はすべて張先生による講義形式で行われた。冒頭、トレーニング理論は、初期段階を経て急激に発展をした90年代、そして現在の人口知能や情報処理、生理学や医学など様々な分野で融合され現在に至っていると紹介され講義がスタートした。そして、本講義で説明された内容は、陸上競技は元よりその他のスポーツに対しても同様に必要不可欠だということを強く伝えていた。

更には、動作発展（Motor Development）、動作学習（Motor Learning）、動作制御（Motor Control）動作プログラム（Motor Program）、動作パターン（Motor Pattern）は、子どもの運動感覚知能の促進に不可欠で、今後成長した際に、各競技の専門的動作に直接影響を与える、とその重要性を伝えていた。

生命の誕生は心臓から始まり目・舌（口）手と順に成長する。だからこそ、その順番に合わせてトレーニングするのが最も効果的であり、目と手を同時に使った動作を入れることは非常に効果的である。その動作は脳から神経を介し身体（筋）に繋がりが、この神経システムを理解してトレーニングを行うことが重要だと説明した。身体の前側の部分（前チェーン）、後ろ側（後ろチェーン）、体側（横チェーン）、クロス（螺旋チェーン）など動作プログラムを確立しパターン化することにより自然と最適化されることも紹介された。

また、「親が子どもにある特定の運動を早く選ぶと、その子どもの意欲が下がる傾向にある。また子どもにとって専門化しす

ぎたり、頻繁に訓練しすぎたりすると、本来の楽しみがなくなる。子どもと大人の運動の定義に違いがあることを理解しなくてはならない」ということを話していたが、まさに日本でも同様のことが警告されている。競技種目の早期専門化や、それによるスポーツ外傷や燃え尽き症候群（バーンアウト）などの問題が山積されているのがそれである。

子ども達の先生や保護者は、運動は子どもの一時的な楽しみだけでなく、その一生を支配することに注意を払わないといけない、と説明を続けていた。

午後の講義はすべて孫先生による実技形式で行われた。特に肩関節と股関節の動作説明にはかなりの時間を使い説明をした。それ以外には、体幹のトレーニングも数多く紹介した。またそのトレーニングは、一人で寡黙に行うのではなく、複数名で楽しく行うことができるよう工夫されていた。またゲーム形式や競争しながらのトレーニングも紹介され、参加者同士も自然と笑みがこぼれていた。講義でもあったように目と手を同時に動作する種目紹介があった。今まで何気なく実施していた動作もしっかりと体系付けて行っていた。またコントロールテストの紹介では、各種目のパフォーマンスに対して得点をつけ、成長の度合いや怪我の抑制に本コントロールテストを活用していた。

7. 所感：本セミナーを通し、海外の指導者との交流ができ、同じ思いを共有できたことは非常に貴重な経験となった。幼少期の動作プログラムを見直す良いきっかけと、新たな学びを受けた講習となった。短い期間でしたがこの経験を糧として、今後も指導者養成委員会での各種クリニックや講習会、キッズ向け事業等に活かせるよう努力していきたい。

最後に、本セミナーに参加する機会をいただいた日本陸連関係各位と、ADC BeijingのMr. SUN Nan、北京体育大学の張先生、西安体育学院の孫先生及び西安体育学院の関係者、セミナーに参加した各国の先生方、期間中の通訳及びデータ整理をしていただいた王芸潔さんに、この場をお借りして深く感謝申し上げます。



2019年度 全国区域技術役員会議 報告

施設用器具委員会

日 時：2019年11月23日（土）、24日（日）

場 所（会議）：日産スタジアム・横浜市スポーツ医科学センター
3階大研修室・会議室

（実技）：日産スタジアム室内練習場・雨天走路

出席者：都道府県推薦技術役員（93名）

施設用器具委員会委員（13名）

日本陸上競技連盟事務局 関、榎田、吉澤

全国検定会議と全国区域技術役員会議を隔年で開催しており、2019年度は全国区域技術役員会議を実施した。各都道府県陸協より推薦された93名（新規11名）が出席した。会議に出席した者を2020・2021年度の技術役員に推薦する。

【第1日】 司会：苅込幹事

事前講習（新規・2期目及び希望者対象）

1. 検定制度と技術役員の役割 講師：高木委員長

2. グラウンドの基礎知識と1周の距離 講師：米岡委員

新規・2期目及び希望者を対象に、検定制度の基礎・技術役員の役割・グラウンドの基礎知識などについての講習を行った。時間をかけてじっくり基礎知識を習得する有意義な講習となった。

開 会：施設用器具委員会 副委員長 福島信久

挨拶：施設用器具委員会 委員長 高木良郎

会 議

（1）検定制度と技術役員の心得 講師：高木委員長

検定制度は1929年昭和4年より始まった日本独自の制度で、公認競技場でない記録は公認されない。この制度により全国どこでも同じ条件で競技会を行うことができる。競技場は第1種から第4種の種別があり、開催できる競技会の規模が異なる。そのために必要な器具などが変わってくる。WA認証は1995年から日本陸連の制度を参考に作られている。認証は公的検査機関が計測することになっているが、日本陸連とスペイン陸連の検定員のみが計測を認められている。

技術役員は、検定員の候補者であり、検定員を補佐する。また、第4種競技場の検定を行う。心構えは、常識ある社会人として誤解のないよう規則に忠実に丁寧な検定を行うことが重要である。

（2）陸上競技検定の実技 講師：本部検定員

13：30～15：30の2時間。経験年数により6班に分かれ、距

離計測・レベル計測・角度計測・施設計測の実技を天候不良のため、雨天練習場・雨天走路で行った。また、300mHのマーキングの設置方法の実技を行った。

（3）陸上競技検定の基礎知識 I

A班…新規・2期目の講義を受けた距離計算の演習 講師：米岡委員

B班…距離計算のテスト 講師：苅込幹事

経験年数によりA班、B班に分かれ、距離計算の演習（A班）、距離計算のテスト（B班）を行った。

（4）世界の動向とワールドランキング制度 講師：関陸連事務局国際担当部長

IAAFからWAへ名称変更があった。ようやく施設マニュアルが改定された。WA認証競技場は年々増加し、クラス2を取る競技場が多くなったが、質の確保に転換されてきている。ワールドランキング制度のため大会ポイントのランクを上げるため、WA認証競技場、WA認証コースが必要となる。

【第2日】 司会：苅込幹事

（5）検定時の注意事項と報告書等の適正な記入方法 講師：高沼副委員長

公認に関する注意事項・公認期間・延期等の扱い、保留・条件付、諸届に関する注意事項、実測報告書審査の注意事項を説明。

（6）陸上競技場検定報告書の記入 講師：山口幹事

検定報告書の記入方法の間違ひの多い箇所を説明。

（7）派遣報告 山口幹事 米岡委員 渡辺技術役員

写真を交えて世界陸上2019ドーハ、世界パラ陸上ドバイの派遣報告を行った。

（8）ワイヤー計測の検定方法 講師：塚野委員

コース設定の注意事項・ワイヤー計測の方法（ワイヤーの作り方・扱い方）の説明。

（7）規則変更に対する対応 講師：高木委員長

2019年規則改正の対応、今までの規則改正に対する対応、2020年規則改正予定、オリンピックの準備状況を説明。

修了書授与：大園氏（鹿児島）に代表で修了証を授与。

挨拶：高木委員長

閉会：施設用器具委員会 副委員長 高沼正利



大会中止に関するアンケート調査

JAAF RunLink 担当 畔 蒜 洋 平

日本陸上競技連盟では、ロードレース大会の安全安心な環境構築を目指す取り組みのひとつとして大会開催中止基準及び中止後の対応方針を定め、陸連公認大会、RunLink加盟大会、その他関係者での共通の運用を行うことを目指していきたくて考えております。

2019年10月に発生した台風19号の影響により多くのマラソン大会の開催が中止・延期となりました。そこで、マラソン大

会の安全安心を目的と掲げているJAAF RunLinkとして陸連公認大会及びJAAF RunLink加盟大会に大会中止時の対応に関するアンケート調査を実施いたしました。

アンケート配布：2019年10月21日～10月31日

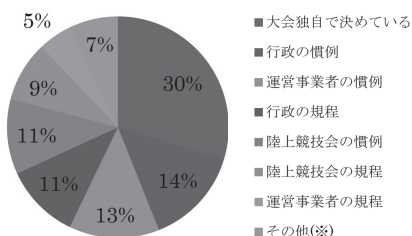
該当大会数：271大会（公認ロードレース大会：201大会、JAAF RunLink加盟大会70大会）

有効回答数：134大会

1. 中止の判断基準

質問内容	回答	
	はい	いいえ
■大会中止の判断基準について実行委員会等で合意形成されている	82	52
■大会中止の判断基準についてマニュアル化されている	43	91
■大会中止の判断基準について要項やホームページ上に記載されている	39	95
■大会中止の判断基準について主任者会議等にて現場従事者に周知されている	61	73

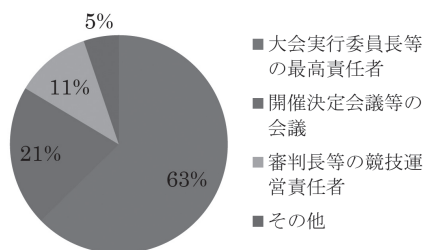
■大会中止の判断基準は何を元に作成されているか（複数回答）



【その他】

- ・当日午前6時時点の状況を見て実行委員長が判断する
- ・日本トリアスロン連合(JTU)の規定に則る
- ・災害・荒天時に実行委員会にて協議して判断
- ・行政の災害対策本部が設置される基準に合わせている
- ・行政の規定、陸協の規定などをベースに大会独自で判断
- ・公共交通機関の状況や開催走路の状態を見て判断
- ・過去の実績も踏まえた判断としている
- ・「状況に応じて主催者にて協議する」とだけ申し合わせている

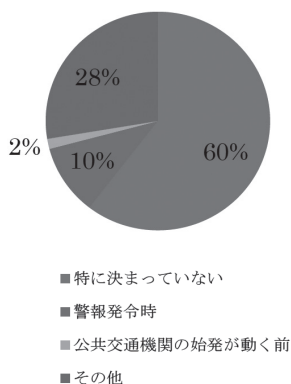
■大会中止可否の実質的な現場での意思決定はどこで行うか。



【その他】

- ・担当行政、実行委員会会長、審判長などで協議
- ・大会実行委員長等の最高責任者
- ・大会実行委員会上位責任者での協議
- ・大会会長、実行委員長、競技役員、メディカル、警察、消防による協議

■大会中止のタイミング



【その他】

- ・(1)大会1週間前 (2)大会2日前 午前9時 (3)大会前日 午後4時(最終) 大会当日 午前4時
- ・①情報収集・現場確認②実行委員・関係団体との協議により決定
- ・警報内容や予報の内容に応じ、数日前～当日に判断
- ・宿泊先等のキャンセルができるタイミングで確定したい
- ・大会前日まで
- ・大会前々日、前日
- ・大会3日前から前日まで
- ・大会当日午前5時～開催可否告知をするが、それよりも前に告知することがある
- ・大会当日の午前4時までに最終判断をする
- ・特に決めていないが、告知は大会当日午前5時にHPで行う
- ・大会当日朝5時、ただし、台風などの大災害が予想される場合は別途検討
- ・午前4時に危機管理対策会議を招集し、午前5時に開催可否を発表する
- ・大会当日の早朝または前日の天候により、気象庁等の情報も参考に判断を行う
- ・中止の要因が発生した内容・タイミングによる
- ・当日午前7時、気象条件による場合は前日中
- ・特に決まっていないが、降雪の場合は前日午前8時30分
- ・荒天時は、大会当日午前9時00分の時点で決定
- ・定時会議での判断と事象発生(確認)時の判断

JAAF RunLink Supporting Members Meeting開催報告

JAAF RunLink プロジェクトでは企業との関係性を1業種1社のスポンサーシップではなく、「賛助会員制度」という形で本プロジェクトの活動に賛同し、共に行動する企業・団体を組織することで、それぞれの強みを活かし、賛助会員同士が連携することで、新しいランニングの価値や商品・サービスを創出していきたいと考えています。2020年1月31日時点で賛助会員は23社となり、様々な取り組みが本制度から生まれました。

賛助会員同士が意見交換をする場「Supporting Members Meeting」を定期的に行われ、企業・団体間の連携を図っており、第3回は2019年6月に開催された「ランニングウィーク」を振り返りました。

■日 程：2019年10月21日（月）

17時00分～20時00分（受付：16：40）

■開催場所：東京都港区赤坂1-8-1 赤坂インターシティ AIR 13階

株式会社オカムラ内 Open Innovation Biotope "Sea"



JAAF RunLink 賛助会員一覧（2020年1月31日現在）

アキレス株式会社

株式会社アダストリア

株式会社ゴールドウイン

Strava Inc.

住友生命保険相互会社

損保ジャパン日本興亜株式会社

一般財団法人 東京マラソン財団

株式会社フォトクリエイト

株式会社ニシ・スポーツ

パーソルキャリア株式会社

株式会社モンベルランエンタープライズ

株式会社ワコール

アシックスジャパン株式会社

株式会社KNT-CTグローバルトラベル

株式会社サニーサイドアップ

株式会社スペースマーケット

ソニーモバイルコミュニケーションズジャパン株式会社

株式会社電通スポーツパートナーズ

株式会社HIROTSUバイオサイエンス

富士通株式会社

株式会社ニューバランス ジャパン

MYLAPS Japan 株式会社

ロクシタンジャポン株式会社

東京マラソン1マイルズ2020 実施概要

名 称：東京マラソン1マイルズ2020（英文名：Tokyo Marathon 1MILEs 2020）

主 催：一般財団法人東京マラソン財団

共 催：公益財団法人日本陸上競技連盟

後 援：東京都

運 営 協 力：一般社団法人OTT

種 目：①1マイルタイムトライアル

②4×400mリレー（小学校高学年向け）

③4×1マイルリレー

※すべての種目で記録計測があります。

開 催 日 時：2020年2月29日（土）雨天決行

11：00 受付開始（未定）

12：00 オープニングセレモニー

12：10 1マイルタイムトライアルスタート

14：10 4×400mリレースタート

14：30 4×1マイルリレースタート

16：00 エキシビションリレー

16：30 イベント終了

開 催 場 所：明治神宮外苑軟式グラウンド（東京2020大会 ウォームアップ会場予定地、東京都新宿区）

最 寄 駅：JR中央・総武線「信濃町駅」より徒歩5分

都営大江戸線「国立競技場前駅」より徒歩5分

東京メトロ銀座線・半蔵門線、都営大江戸線「青山一丁目駅」より徒歩10分

定 員：①1マイルタイムトライアル 350人

②4×400mリレー 7チーム

③4×1マイルリレー 27チーム

参加対象者：以下の条件にあてはまる者で、主催者が出場を認めた者。

①1マイルタイムトライアル

中学生以上で1マイル（1,600m）を10分以内で完走できる者。

②4×400mリレー

小学生（4年生～6年生）4人で構成されたチーム。

③4×1マイルリレー

中学生以上の4人で構成されたチーム。

※出場に公益財団法人日本陸上競技連盟への競技者登録は必要ありません。

参 加 料：①4,000円（税込） ②1チーム4,000円（税込） ③1チーム8,000円（税込）

申 込 方 法：東京マラソン2020公式ウェブサイトから受付

（先着順。定員になり次第受付終了）

申 込 期 間：2019年12月13日（金）10時 ～ 2020年1月17日（金）17時

そ の 他：公益財団法人日本陸上競技連盟の公認競技会ではないため、公認記録にはなりません。

複数種目への申込も可能です。

東京マラソン1マイルズ2020

1600mを走るということ。

できたばかりの新国立競技場にサブトラックがあることをご存知ですか？

サブトラックとは補助競技場という意味。

メインスタジアムで競技をする選手たちが調整やウォーミングアップをおこなうトラックのことです。

東京2020オリンピック・パラリンピックが開催される新国立競技場のサブトラックは、

すぐとなりにある明治神宮外苑にある軟式野球場に仮設トラックがつくられました。

仮設といえども世界中のトップアスリートのパフォーマンスに対応する国際基準にみあった

最高グレードのトラックです。

このサブトラックは東京2020オリンピック・パラリンピックが終わると、

元の軟式野球場に戻ることが決まっています。

2020年以降、東京にはたくさんのレガシーが残りますが

このサブトラックだけは、幻のレガシーになるに決まっている

みなさんの記憶だけにしか残らないレガシーです。

この幻のレガシーをより多くのランナーや陸上ファンに残してもらおうこと。

東京マラソン財団、日本陸連といっしょに考えました。

世界中から市民ランナーが集まる東京マラソン2020。

そのスタート前日の2月29日にオリンピック、パラリンピアンしか足を踏み入れることができない、

このサブトラックであらゆる走力の市民ランナーが参加できるトラックレース

「東京マラソン1マイルズ2020」を開催いたします。

この「東京マラソン1マイルズ2020」では1600mという距離にフォーカスをあてました。

1600mという距離は日本ではあまりなじみがないかもしれませんが

400mトラックを4周すると1600m。ちょうど1マイル。

短距離選手が4人、それぞれが400mを走るマイルリレーもできますし、

1600mという距離はフルマラソンを走る長距離ランナーだけでなく、

800mや1500mを得意とする中距離ランナーも参加できる距離です。

10kmやハーフマラソンを走るのはまだまだ不安という市民ランナーも

1600mなら安心してレースに参加できますよね。

そして、新たなこころみとして「トラックを使った駅伝」。

1600m×4リレーも開催します。

トラックで開催するから、観る方もレースの展開のすべてを楽しめますし、

走る方もずっと声援を受けながら走ることができる。

たくさんの「1マイル」レースが集まるから「東京マラソン1マイルズ2020」。

自ら走るだけでなく、観ることも楽しめるレースとなることでしょう。

(文：EKIDEN News)

※本イベントの参加者及びボランティアの募集は終了しております。
当日の観覧は可能ですので、是非お越しください。

2019数字で見る陸上競技 都道府県別高校生陸上競技部員割合

事務局

2019数字で見る陸上競技、4回目の今回は、高校生の陸上競技部員の全高校生生徒数における割合を都道府県別にご紹介します。

2018年度の日本陸上競技連盟における高校生登録者を、同年度の高校生生徒数（文部科学省調べ）で割ったものです。

【算出方法】 割合(%) = (高校生陸連登録者数) ÷ (高校生全生徒数) × 100

都道府県名	2018年度高校生 陸連登録者数	前年比	前年数	2018年度高校生 全生徒数	2018年度割合	2017年度高校生 全生徒数	2017年度割合
北海道	4,157	119	4,038	123,112	3.4%	125,164	3.2%
青森	1,490	8	1,482	33,653	4.4%	34,902	4.2%
岩手	1,791	-35	1,826	32,580	5.5%	33,689	5.4%
宮城	2,570	11	2,559	58,803	4.4%	59,942	4.3%
秋田	1,341	2	1,339	23,102	5.8%	23,947	5.6%
山形	1,694	0	1,694	29,251	5.8%	30,160	5.6%
福島	2,061	32	2,029	49,425	4.2%	50,924	4.0%
茨城	2,351	-28	2,379	75,540	3.1%	77,044	3.1%
栃木	1,608	52	1,556	52,182	3.1%	53,276	2.9%
群馬	1,652	-10	1,662	51,371	3.2%	52,160	3.2%
埼玉	5,888	202	5,686	172,219	3.4%	175,655	3.2%
千葉	5,733	-54	5,787	148,326	3.9%	150,698	3.8%
東京	8,348	-111	8,459	310,355	2.7%	314,385	2.7%
神奈川	5,807	-160	5,967	203,674	2.9%	206,716	2.9%
新潟	2,491	-45	2,536	55,030	4.5%	56,649	4.5%
富山	1,221	22	1,199	27,680	4.4%	28,286	4.2%
石川	1,228	-5	1,233	31,532	3.9%	31,987	3.9%
福井	847	-22	869	21,856	3.9%	22,265	3.9%
山梨	917	8	909	24,070	3.8%	24,592	3.7%
長野	1,711	-46	1,757	56,070	3.1%	57,224	3.1%
岐阜	2,149	55	2,094	54,178	4.0%	55,400	3.8%
静岡	4,296	71	4,225	96,815	4.4%	98,846	4.3%
愛知	7,849	-11	7,860	193,454	4.1%	197,385	4.0%
三重	2,276	54	2,222	47,154	4.8%	48,350	4.6%
滋賀	1,721	23	1,698	38,792	4.4%	39,473	4.3%
京都	2,398	-17	2,415	69,037	3.5%	70,815	3.4%
大阪	6,576	12	6,564	220,504	3.0%	226,957	2.9%
兵庫	5,775	-42	5,817	136,275	4.2%	139,953	4.2%
奈良	1,245	83	1,162	35,220	3.5%	35,745	3.3%
和歌山	808	-29	837	25,524	3.2%	26,489	3.2%
鳥取	657	-43	700	14,793	4.4%	15,033	4.7%
島根	818	28	790	18,121	4.5%	18,590	4.2%
岡山	1,563	-26	1,589	52,458	3.0%	53,688	3.0%
広島	2,763	-57	2,820	70,884	3.9%	71,948	3.9%
山口	1,624	-102	1,726	33,099	4.9%	33,868	5.1%
徳島	588	-4	592	18,431	3.2%	19,075	3.1%
香川	1,007	17	990	25,878	3.9%	26,479	3.7%
愛媛	1,430	26	1,404	33,321	4.3%	33,942	4.1%
高知	587	15	572	18,343	3.2%	19,060	3.0%
福岡	4,238	55	4,183	128,210	3.3%	130,736	3.2%
佐賀	1,216	-18	1,234	23,834	5.1%	24,527	5.0%
長崎	1,864	-66	1,930	36,624	5.1%	37,694	5.1%
熊本	1,643	77	1,566	46,369	3.5%	47,590	3.3%
大分	1,047	-81	1,128	30,846	3.4%	31,329	3.6%
宮崎	1,058	11	1,047	30,455	3.5%	31,318	3.3%
鹿児島	1,505	20	1,485	44,981	3.3%	45,985	3.2%
沖縄	784	-9	793	44,938	1.7%	45,721	1.7%
合計	114,391	-18	114,409	3,168,369	3.6%	3,235,661	3.5%

※高校生全生徒数は、文部科学省ホームページ統計情報（http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm）内、学校基本調査の高等学校＞全日制・定時制 学年別生徒数 からの抜粋

第220回ワールドアスレティックス(WA)カOUNシル会議報告

会長 横川 浩

第220回ワールドアスレティックス（世界陸連）カOUNシル会議（2019年11月22日～23日）がモナコで開催されたので、WAカOUNシルメンバーとして参加した。同会議の概要は以下の通りである。

第220回国際陸上競技連盟カOUNシル会議 概要

1. ロシア問題

ルネ・アンデルセン調査団長から報告が行われ、WADAの動向も含め、AIU（アスレティックスインテグリティユニット）がロシア陸連の調査妨害に対して告発した事実、データ改ざん等の疑いに対するロシア陸連幹部の暫定的資格停止処分について説明された。この調査報告を受け、ロシア陸連の復帰に向けて定められていたプロセスを凍結することが決定した。また、2016年6月に導入された、中立の立場（ANA-Authorized Neutral Athletes）で出場を認めていた資格審査のプロセスについても、現状の形が適切であるか再検討されることになり、この期間中はANAステータスの申請は一時停止となる。今後、調査団は、ロシア陸連のアンチドーピング規則への違反が確定した場合、どのような罰則を科すべきなのか、ワールドアスレティックスからの除名も含めて協議し、提案する。

2. WA規則の改定

●AIU規則に新たに条項4.4を追加する。これは、先の総会で承認された、AIU Boardに独立した立場の委員を2名追加するもので、3月の指名承認を目指す。任期は2021年総会までとする。

●IAAF競技会における広告及び展示物に関する規定の改定 WASや国際競技会における、競技者の衣類や競技中に使用されるその他の衣類に関する規定を改定することで合意した。これにより、競技ウェアにナショナルスポンサーのロゴも掲出すること等が認められ、各加盟団体やナショナルスポンサーに対してより柔軟な規定が適用される。

3. 人事

●アスリートコミッションはフランスのRenaud Lavellenieを委員長に、ニュージーランドのValerie Adamsを副委員長に任命した。同2名は、アスリートコミッション代表としては初めて、投票権を持つカOUNシルメンバーとなり、WAの決定プロセスに於いて、アスリートの声が更に反映されることが期待される。

●Executive Board (EB) には、指名パネルから推薦のあった、Hasan Arat(TUR)、Abby Hoffman(CAN)、Sunil Sabharwal (USA/HUN) が承認された。EBは同3名と、コー会長、ブブカ上席副会長、副会長3名、Jon Ridgeon CEO（投票権無し）で構成される。

4. コンペティション

●グローバルカレンダー

グローバルカレンダーの推進のためには、国内選手権の日程の固定化が重要であると考えられ、北半球の場合、2021年と2022年は以下の候補日程が2枠設定された。2021年は導入のためのパイロットイヤーとして進め、2022年より本格的導入を目指す。グローバルカレンダーを推進するには、設定された期間内に国内選手権を実施しなかった場合

の制裁も検討するべきであるという意見もあり、その措置として、ワールドランキングへの記録の反映を認めないといった案も含めて検討していく。

	2021 世界選手権 オレゴン	2022 エリア選手権 (ヨーロッパ、他の エリアは未定)
大会日程	8月6日～15日	8月15日～21日
国内選手権(候補枠①) (3週間前)	7月16日～18日	7月22日～24日
国内選手権(候補枠②) (6週間前)	6月25日～27日	7月1日～3日

●WAコンチネンタルツアー (CT)

ダイヤモンドリーグ以外で最もレベルの高い単日大会として始まるCTは、それぞれの大会のレベルや賞金によって、ゴールド、シルバー、ブロンズにランク分けされる。ゴールドはWA主導の下、トップ選手が最高の舞台で競技し、賞金やワールドランキングポイントを獲得する機会が与えられる、最もランクの高い競技会となる。シルバーとブロンズは各エリア連盟が主導で開催され、全体で約100大会を想定している。ゴールドは、2020年は10都市で開催し、賞金総額は200万ドルとなる。日本では、5月10日にオリンピックの舞台となる国立競技場で開催される。

5. オリンピック及び世界陸連主催大会 (WAS)の準備状況他

●2020年世界室内南京大会：室内競技場の建設状況、宿泊施設、カOUNシル会議の開催について報告がされた。2月17日～18日に国内室内選手権をテストイベントとして実施する。

●2020年世界ハーフマラソン・グディニャ大会：同時開催される市民の部にはすでに15000人がエントリーし、最終的には20000人規模になる見込み。

●2023年世界陸上ブダペスト大会：2023年の世界選手権から、開催時期を当初予定されていた、8月最後の週～9月第1週ではなく、8月第3週から第4週に変更する。これに従い、ブダペスト大会日程が当初予定されていた2023年8月26日～9月3日から、8月18日～27日に変更になる。尚、世界選手権の開催準備状況については、アセスメントチームを設立し、カOUNシルメンバーへの報告メカニズムを構築する。

●2020年東京オリンピック：IOCと東京オリンピック組織委員会が協議の結果、ロード種目は東京から札幌に変更する事が決定した。大会スケジュールやコース案が組上に上り、選手団や大会運営の利便性を考慮して協議された。今後、IOC、WA、組織委員会3者の合意を待って、大会準備を早急に推進する。

●2024年パリオリンピック：同大会で実施する種目に関する検討部会を立ち上げる。主に競歩種目の距離、クロスカントリー競走も含めた競技場外種目の実施の可能性について議論し、3月のカOUNシル会議に報告を行う。

6. 今後のWAS大会開催地は以下に決定。(いずれも下記以外の立候補都市はなかった)

●2022年世界室内陸上競技選手権大会：セルビア・ベルグラード

●2022年世界ハーフマラソン選手権大会：中国・揚州

大会観戦ガイド

第103回日本陸上競技選手権大会 男子・女子20km競歩 兼 東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会 第31回U20選抜競歩大会

神戸市の六甲アイランド甲南大学西側20kmコース(新コース)で行われる男女の20km競歩の日本選手権大会です。今回は東京2020オリンピックの日本代表選手選考競技会を兼ねています。

▼日時：2020年2月16日(日)

▼コース：兵庫・六甲アイランド甲南大学西側20kmコース

▼種目・スタート時刻：

男子20km競歩(日本選手権)	8時50分
女子20km競歩(日本選手権)	10時35分
U20男子10km競歩	12時35分
U20女子5km競歩	13時35分

▼問合せ先：一般財団法人兵庫陸上競技協会

TEL 078-231-1771

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1385/>



昨年度の大会より

第103回日本陸上競技選手権大会 クロスカントリー競走/ 第35回U20日本陸上競技選手権大会 クロスカントリー競走

日本陸上競技選手権大会として開催されるクロスカントリー競走。大自然の中の白熱したレースをお楽しみ下さい!

▼日時：2020年2月22日(土)

▼会場：国営海の中道海浜公園クロスカントリーコース
福岡県福岡市東区西戸崎18-25

▼アクセス：

JR鹿兒島線「博多」駅発「香椎」駅乗り換え「西戸崎」駅下車

福岡市営渡船ベイサイドプレイス発、西戸崎港下船
西鉄バス「天神中央郵便局前」発、「西戸崎駅前」下車
うみなかラインもち(マリゾン)発、海の中道下船

▼種目・スタート時刻：

U20女子6km	13時00分
U20男子8km	13時25分

シニア女子8km(日本選手権種目) 14時00分

シニア男子10km(日本選手権種目) 15時40分

▼テレビ放送予定：2月22日(土)TBS系列全国28局ネット

▼問合せ先：福岡クロカン運営本部事務局
TEL 092-738-2180

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1386/>



昨年度の大会より(U20男子)

東京マラソン2020 兼 マラソングランドチャンピオンシップファイナルチャレンジ~東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会~ 兼 アボット・ワールドマラソンメジャーズシリーズXIII

首都・東京を舞台に行われ、3万8000人が参加する日本最大のマラソン大会です。

東京オリンピックマラソン日本代表最後の1枠を目指すレース「マラソングランドチャンピオンシップファイナルチャレンジ」の男子第2戦です。

▼日時：2020年3月1日(日)

9時05分 車いすマラソン・10kmスタート、

9時10分 マラソン・10kmスタート

▼会場：スタート/東京都庁前

フィニッシュ/東京駅前・行幸通り(マラソン)、
日本橋(10km)

▼コース：マラソン/東京都庁~飯田橋~神田~日本橋~浅草雷門~両国~門前仲町~銀座~高輪~日比谷~東京駅前・行幸通り

10km/東京都庁~飯田橋~神田~日本橋

▼テレビ放送予定：3月1日(日)フジテレビ系全国ネット

▼交通規制のご案内：

HP：<https://www.marathon.tokyo/about/traffic/>

▼東京マラソンの交通のご案内等に関するお問い合わせ窓口：TEL 03-6631-9646

受付時間：2月21日まで(※土日、祝日、年末年始を除く) 10:00~17:00

2月25日~2月29日 10:00~18:00

3月1日[大会当日] 7:00~20:30

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1387/>



昨年度の大会より

第75回びわ湖毎日マラソン大会 兼 マラソングランドチャンピオンシップ ファイナルチャレンジ～東京2020オリンピック 日本代表選手選考競技会～

東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会～東京オリンピックマラソン日本代表最後の1枠を目指すレース「マラソングランドチャンピオンシップファイナルチャレンジ」の男子最終戦です。

▼日時：2020年3月8日（日）9時15分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

滋賀・皇子山陸上競技場 滋賀県大津市御陵町4-1

▼アクセス(皇子山陸上競技場)：京阪石山坂本線「別所」駅から徒歩1分またはJR湖西線「大津京」駅から徒歩7分

▼コース：日本陸連公認びわ湖毎日マラソンコース(42.195km)＝皇子山陸上競技場－柳が崎－瀬田唐橋西詰－石山寺－瀬田川洗堰－瀬田唐橋東詰－県立漕艇場－新瀬田浄水場前折り返し－皇子山陸上競技場

▼放送予定：3月8日（日）〈テレビ〉NHK 総合
〈ラジオ〉NHK ラジオ第一

▼問合せ先：びわ湖毎日マラソン大会事務局

TEL 06-6346-8249

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1433/>



昨年度の大会より

名古屋ウィメンズマラソン2020 兼 マラソングランドチャンピオンシップファイナルチャレンジ ～東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会～ 兼 第104回日本陸上競技選手権大会女子マラソン

大型ウィメンズマラソンとして生まれ変わって9年目を迎える名古屋ウィメンズマラソン。女子マラソンの東京オリンピックマラソン日本代表最後の1枠を目指す「マラソングランドチャンピオンシップファイナルチャレンジ」最終戦として開催します！

▼日時：2019年3月8日（日）9時10分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

愛知・ナゴヤドーム 愛知県名古屋市東区大幸南1-1-1

▼アクセス（ナゴヤドーム）：

地下鉄、ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」駅から徒歩5分、JR、名鉄「大曽根」駅から徒歩約15分

▼コース：名古屋ウィメンズマラソンコース

▼テレビ放送予定：東海テレビ(フジテレビ系列全国ネット)

▼問合せ先：マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知ランナーコールセンター TEL：0570-550661（平日10：00～17：00）

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1432/>



昨年度の大会より

第44回全日本競歩能美大会 兼 Asian 20km Race Walking Championships in NOMI 2020 兼 東京2020オリンピック代表選手選考競技会 併催 第14回日本学生 20km競歩選手権大会

アジア選手権を兼ねて開催する本大会。日本のトップウォーカーがアジアNo.1を目指してハイレベルな争いを繰り広げます。また、東京2020オリンピックの日本代表選手選考競技会としても開催します。

▼日時：2020年3月15日（日）

▼コース：石川県能美市・日本陸上競技連盟公認能美市営20kmコース（1.0km周回コース）

▼アクセス（石川県能美市浜小中学校付近）：小松空港からタクシーで約15分。北陸本線「小松」駅もしくは「能美根上」駅下車、小松駅からタクシーで約15分、能美根上駅からタクシーで約3分、徒歩約7分。

▼種目・競技時間：

〈男子〉	中学生	3km 競歩	8時10分
	高校生	10km 競歩	13時10分
	全日本・Asian・学生選手権	20km 競歩	8時50分
〈女子〉	中学生	3km 競歩	8時10分
	高校生	5km 競歩	12時35分
	全日本・Asian・学生選手権	20km 競歩	10時35分

▼問合せ：第44回全日本競歩能美大会実行委員会事務局
TEL：0761-58-2273

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1388/>



昨年度の大会より



JAAF TOYAMA 一般財団法人富山陸上競技協会

〒939-8234 富山市南中田368番地
富山県総合運動公園陸上競技場内
TEL.076-461-5917 FAX.076-461-5927
http://www.jaaf-toyama.net/

富山陸上競技協会では、令和元年11月23・24日、30日・12月1日の四日間で、富山県総合運動公園陸上競技場を会場に、JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会を行った。

これまでの講習会は、夏休み期間を使って実施していた。夏休み中に実施する場合、小中学校の教諭を中心に受講者を集めることが、比較的容易であった。しかし、夏休み中は、各種大会や記録会が集中しており、陸協から派遣する講師が集めにくいというデメリットがあった。本年度は、夏の猛暑を考慮して、秋の過ごしやすい時期に実施することにした。申込前日、受講申込者は規定の人数に達していなかったため、開催が危ぶまれたが、実際には23名の受講者が集まり、ほっと胸をなで下ろした。受講者も本県だけでなく、隣の石川県をはじめ、大阪や奈良等、遠方からはるばる参加いただいた。

実施の四日間で、この時期の富山県は天候も悪く、晴れる日が少ない。しかし、奇跡的に、全て秋晴れの過ごしやすい日であった。しかも、遠くには3000m級の山々が連なる立山連峰が姿を現し、遠方から参加いただいた受講者の方々も、大いに喜んでいて。陸協派遣の講師陣も、元オリンピック選手や強化部の先生方をお願いすることができた。講師の先生方は、専門的な講義・実技を行いながらも、ジュニア期における指導の仕方等を丁寧に教えてくださった。短く限られた時間の中で講習があったが、受講者の多くが講義後も熱心に先生方に質問をしていたのが、印象的であった。これからの陸上競技普及の実践者として大いに期待したい。

JAAF ISHIKAWA 一般財団法人石川陸上競技協会

〒921-8833 野々市市藤平144-5
TEL.076-227-9410 FAX.076-227-9410
http://gold.jaic.org/ishikawa/

本年もよろしくお願ひ申し上げます。いよいよ東京オリンピックの年がスタートいたしました。日本選手の頑張りに期待をしたいとおもいます。ドーハで開催された世界陸上で本県出身の鈴木雄介選手が50km競歩でみごとに優勝をしたことは県民が応援し大喜びに湧きました。オリンピックでも金メダルに向け活躍することを期待するとともに本協会一丸となって応援したいと思っております。また、今年3月に行われます全日本競歩能美大会・アジア大会と4月に行われます日本選手権50km競歩・全日本競歩輪島大会では中学生の部が復活します。多くの選手が参加されますようお願いいたします。

昨年は中学・高校・大学・パラなどの全国大会や国体、全国中学校駅伝女子2位、全国高校駅伝で男子が県最高記録など多くの大会で県内の選手たちが好成績をおさめ活躍した年でもありました。これもひとえに数年前から計画的なジュニアの育成事業と中体連・高体連の強化事業が大学・実業団にも繋がりをみせ成果が実ったことと皆様へ感謝を申し上げます。今年度の事業目標の一つでもありません。陸上競技の広報活動として陸上競技への興味と普及をめざした事業の中で、初めて企業の協力を受けて県駅伝大会でレースの模様をライブ配信しました。試行ではありましたが多くの方々にご覧いただくことと好評をいただきました。来年度からも多くの大会でも実施し、多くの方が陸上競技に興味を持っていただく事業を計画し、競技場に足を運んでくれるような活動と実現に向けて検討していきたいと思っております。強化事業としても、ジュニアの育成と様々な年齢層の連携強化策を目指していきたいと思っております。これらの事業を実施できることは多くの企業の方々や本協会の皆様のご支援とご協力をいただいたおかげと感謝申し上げます。(文責：専務理事 藤田晴夫)

JAAF FUKUI 一般財団法人福井陸上競技協会

〒918-8585 福井市三十八社町33-66 フクビ化学工業株式会社内
TEL.0776-38-0360 FAX.0776-38-0361
http://www.fukui-jaaf.com/

～Athlete Night Games in Fukui 2020 FUKUI 9.98CUP～開催について

昨年8月17日(土)に開催された『Athlete Night Games in Fukui 2019』は、大盛況のもとに試合を終えることができました。結果、男子走幅跳において城山正太郎選手(ゼンリン)が8m40cm、橋岡優輝選手(日本大学)が8m32cm、男子110mHにおいて高山峻野選手(ゼンリン)が13秒25という3つの日本新記録。女子100mHにおいて寺田明日香選手(パソナグループ)が13秒00に日本タイ記録が樹立されました。この大会は、『クラウドファンディング』という手法を用いて、選手への活動支援金を募ったところ、全国より785万円もの支援を賜りました。その支援金は全額選手への活動支援のために使わせていただきました。(そのため、運営資金が大幅な赤字でした(泣))本年も、『Athlete Night Games in Fukui 2020』を開催します。大会名：Athlete Night Games in Fukui 2020 FUKUI 9.98CUP
日 時：2020年8月29日(土)
場 所：9.98スタジアム
9.98CUP種目：男子100m・女子100m・男子110mH・女子110mH・男子走幅跳

です。この大会は一般種目もありますので(特に小学生は参加人数制限なしにしました)皆様ぜひ、9.98スタジアムで走ってみませんか?また、全国のアスリートの皆様『FUKUI 9.98CUP』申し込んでいただきたいと思っております。

全国の陸上競技ファンの皆様・または支援して下さる企業の皆様、今年もクラウドファンディングで選手への支援金を募ります。全額選手の支援に使います。趣旨ご理解の上、何卒御協力をよろしくお願ひいたします。(文責：専務理事 木原靖之)

JAAF NAGANO 一般財団法人長野陸上競技協会

〒381-0038 長野市東和田632 長野市営陸上競技場内
TEL.090-1867-7044 FAX.026-241-5155
http://nagano-rk.com/

長野陸協の近況について2件申し上げます。

【全国都道府県対抗駅伝競走大会の結果】 Cheer Up! 信州
皇后盃 第38回 女子 第4位 2:16:37 (過去最高順位・記録)
天皇盃 第25回 男子 優勝 2:17:11(大会新記録、3年ぶり8回目の優勝)
女子は初のメダル獲得が目標でしたが、3位東京チームに1秒届かず涙をのみました。この悔しさをばねに、選手層を厚くし実力を蓄え、挑戦したいと思っております。

男子は6位までが大会新記録という高速レースの中で運よく8日目の優勝を飾ることができました。選手、監督・コーチ・トレーナー・サポートスタッフはもちろんのこと、選手を快く送り出していた所属長の方、在広島信州県人会並びに近隣県人会の皆様方、長野県スポーツ議員連盟・県教育委員会・県スポーツ協会、信濃毎日新聞社をはじめご支援を賜りました全ての皆様方に心から御礼申し上げます。

【2027年長野国体に向けて】
2027年2巡目の長野国体会場は、昭和53年「やまびこ国体」のメイン会場「松本平広域公園陸上競技場」に決定し、昨年11月末に県から、隣接する「信州松本空港」の高さ制限(公園内建築物)を満たすため、メイン競技場を取り壊し、軸を90度回転し西側に寄せて新設する整備方針が示されました。2020年度はその基本設計となり、2022年6月頃着工、2026年4月竣工の計画です。長野陸協の要望がほぼ満たされ「器」は整いつつあります。「中身」については難題ですが陸協側で充実させなければなりません。今後ともさらに、皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(文責 代表理事・理事長 内山了治)

陸協NEWS



JAAF
SHIZUOKA

一般財団法人静岡陸上競技協会

〒420-0836 静岡市葵区東町15
TEL.054-253-9801 FAX.054-253-9801
http://www2.wbs.ne.jp/nagata/t&f/

11月30日、県内の全35市町38チームが参加し、第20回しずおか市町対抗駅伝競争大会が開催されました。静岡県庁前をスタートし、葵区～清水区～駿河区を走り抜け、草薙陸上競技場まで12区間42.195キロのコースで競われました。市の部は御殿場市が2時間9分29秒の大会新記録で2年連続4度目の優勝。町の部は清水町が2時間17分13秒で頂点に立ちました。

12月30日には、全日本大学女子選抜駅伝大会(富士山女子駅伝)が富士宮市浅間大社前～富士総合競技場までの7区間、43.4キロのコースで行われました。名城大学が2時間23分9秒で優勝しました。オープン参加の静岡県は2時間37分7秒でした。

(文責：広報報道委員長 水谷陽介)



JAAF
GIFU

一般財団法人岐阜陸上競技協会

〒502-0841 岐阜市学園町3-49 仁科ハイウエイA-102
TEL.058-294-6494 FAX.058-294-6491
http://www.gifu-riku.com/

2019年年末の話題から

2019年全国高校駅伝。男女ともに熱い走りが続りあげられる中、女子の先導をした京都府警白バイ隊平安クィーンズ(赤いジャケット)が印象的だった方も多いと思いますが、センターライン側を走行した小山巡査部長さんは県立岐阜商業陸上競技部の出身です。選手としてかなわなかった都大路の夢を白バイ隊員として選手先導の夢に置き換え、すでに全国都道府県女子駅伝、全国高校駅伝と夢を実現しました。全国大会の先導は今大会が最後のことでしたがその大会に後輩の県立岐阜商業高校女子チームが大会初参加を果たしました。偶然とはいえこのめぐりあわせに小山さんも後輩たちも特別な都大路になったようです。夢を追いかけることの素晴らしさを物語った話題となりました。

年末12月24日から27日の3泊4日にわたり、高体連東海近畿ブロック(10県)強化合宿が本県の長良川競技場で開催されました。参加者の内訳は、コーチングスタッフ約40名、運営スタッフ約40名、参加選手約260名でした。東海近畿の高体連陸上競技関係者のご協力に感謝申し上げます。2019年やや不振であった本県の高体連陸上界、その現状の中でレベルの高い強化練習会を地元で開催できることは競技レベルの向上の重要なステップになると思います。幸いにもこの合宿は来年度も本県で開催され、さらに、2021年度から2年間全国高体連強化合宿が本県で予定されています。本県競技者の競技に対するモチベーション向上のよい機会に恵まれたことに感謝しています。皆さんの来県をお待ちしています。

(文責：黄倉寿雄)

JAAF
AICHI

一般財団法人愛知陸上競技協会

〒460-0015 名古屋市中区大井町3-15 日重ビル2F
TEL.052-684-7498 FAX.052-684-7499
http://www.aichi-rk.jp/

昨年愛知が全国優勝した、全国都道府県対抗女子駅伝大会が、1月12日(日)京都で行われ、最後まで諦めることなく健闘しましたが、結果20位で残念ながら10年続いた連続入賞が途切れてしまいました。19日(日)広島での男子駅伝は、終盤まで頑張りを見せましたが、昨年の7位から12位と後退し、女子同様入賞を逃してしまいました。ただ、男女共中学生・高校生の若い選手が力強い走りを見て、来年以降に期待が膨らみます。

今年度は、ドーハで世界選手権大会がありました。愛知陸協登録者では、山西利和選手(男子20km競歩・愛知製鋼)が圧巻のレース展開で、見事堂々の金メダルを獲得しました。東京オリンピック出場が内定し、日本陸上界でメダルに最も近い選手として期待されており、また、愛知ゆかりの選手として、東京オリンピック女子マラソンに内定の鈴木亜由子選手(日本郵政グループ)にも大いに期待がかけられます。

現在、協会では、2月23日(日)の読売犬山ハーフマラソン、3月8日(日)の名古屋ウィメンズマラソン2020の準備のため、連日会議を重ね忙しい日々が続いております。また、強化委員会を中心に、来年度にむけ、国体強化指定選手合宿・練習会、ジュニア部練習会、競歩教室、各支部陸協の陸上教室等が盛況に行われております。

(文責：専務理事 稲垣裕)

JAAF
MIE

一般財団法人三重陸上競技協会

〒516-0023 伊勢市宇治館町510
三重交通Gスポーツの杜 伊勢 内
TEL.0596-22-8890 FAX.0596-63-5337
http://www.mierk.jp/menu/index.htm

昨年9月に行われたMGCにおいて三重県出身の中村匠吾選手(富士通)が優勝し、東京オリンピックマラソン代表に内定しました。リオオリンピックに出場した石川末廣選手(Honda)に引き続き三重県から2大会連続オリンピックマラソン日本代表が誕生しました。

都道府県対抗男子駅伝で三重県チームは8位に入賞し、県最高記録を出すことができました。中学生では倉本晃羽選手(白子中)が2区区间8位の好走をしてくれました。倉本選手は全国中学駅伝では1区区间賞をとり、白子中の4位入賞に大きく貢献してくれました。高校生では全国高校駅伝に県代表として出場し、県高校新記録を樹立した四日市工業高と東海地区代表の伊賀白鳳高の2校の選手が、全国高校駅伝のまま都道府県駅伝でも躍動してくれました。また、大学生、一般においても、来年最終学年として箱根駅伝王座奪還を目指す塩澤稀夕選手(東海大)は7区区间8位、全日本実業団対抗駅伝で区間新記録を樹立した西山雄介選手(トヨタ自動車：ふるさと選手)3区区间7位と好走しました。

また、女子では昨年の大阪全中入賞の3区澤井風月選手(嬉野中)、8区松本未空選手(平田野中)の中学生が活躍しました。特に松本選手は現在2年生であり、今年開催の三重全中での活躍も期待されます。一般の選手では全日本実業団対抗女子駅伝で2年連続入賞のデンソー所属の選手たちが大いに活躍してくれました。

中長距離に課題のあった三重陸協ですが2020三重全中、2021三重国体に向けて大きな弾みとなってくれることを願います。

(文責：広報部 中村恭和)

事務局からのお知らせ

◆◆「セイコーゴールデングランプリ陸上2020東京」大会特設ページオープン!◆◆

2020年5月10(日)に東京国立競技場で開催される「セイコーゴールデングランプリ陸上2020東京」の大会特設ページがオープンしました。

チケット販売や出場選手情報など、随時掲載いたします。お楽しみに!

〈大会URL〉

<http://goldengrandprix-japan.com/>



【公式SNS】

Twitter @goldengrandprix
Facebook 陸上：ゴールデングランプリ
@goldengrandprix

◆◆メールマガジン配信中!◆◆

日本陸連公式メールマガジンを好評配信中です。

登録は<https://www.jaaf.or.jp/mailmagazine/>か、右のQRコードから!



陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)
友永 義治 (陸連副会長)
八木 雅夫 (陸連副会長)
尾縣 貢 (陸連専務理事)
麻場 一徳 (陸連強化委員長)
風間 明 (陸連事務局長)
牧野 豊 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL : 050-1746-8410
FAX : 050-3588-1869